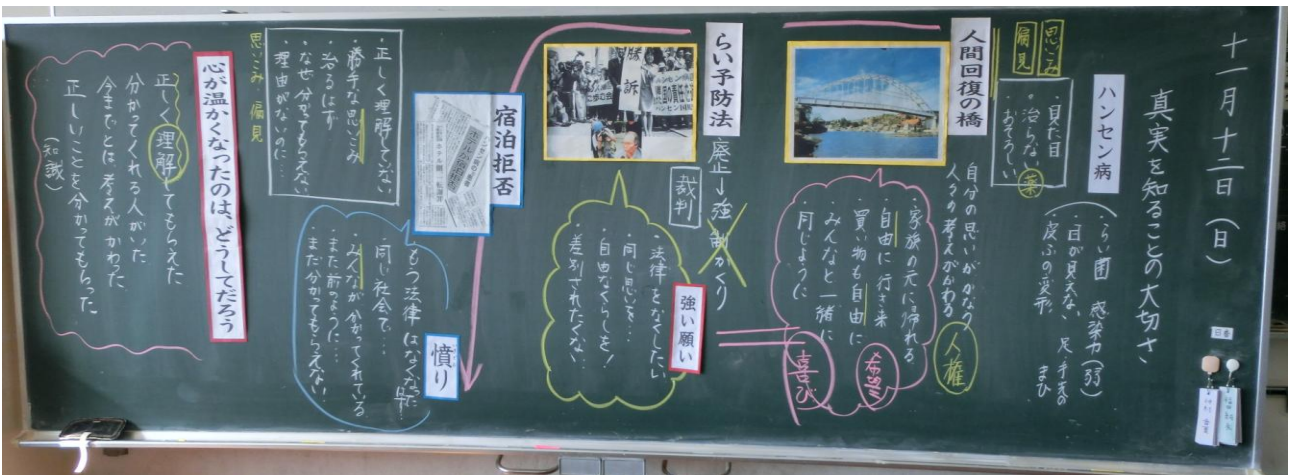


<児童の感想>

- ・ ハンセン病の患者さんたちが、こんなにいやな思いをされていたなんて知りませんでした。どうして差別されて生活しないといけないんだろうと考えたりしました。だれも正しい知識がなかったし、みんなが言うからと周りの人も何もしなかったんだと思います。これからは、正しいことを正しい、間違っていることは間違っていると言える人になりたいです。
- ・ ハンセン病患者さんたちや家族の方々が、何とかしてみんなと同じ生活を送りたいという強い思いがあったから今の生活があるんだと思います。でも、正しい知識がなかったから温泉事件のようなことが起こったんだと思います。今の自分にできることを考えながら、これからは周りに流されないように、どんなことでも真実を知って伝えていきたいです。
- ・ 今までずっと療養所の中で生活してこられて、つらいこともいっぱいあったと思います。みんなと同じ社会で生活したいという思いがなくなって本当に良かったと思いました。しかし、一番大切なことは、何も知らないのいうわさを信じたり、まわりに流されないことだと思います。どんな時でも、本当のことを知ることが大切だと思います。
- ・ 今でも、生まれ育った家に帰れないと言うことを知り、悲しくなりました。でも、これからは、差別や偏見がなくなり、みんなが同じ社会で生活できるような明るい社会になればいいと思いました。そんな社会にしていきたいです。

<板書>



<学級通信より>

プライド

5年1組 学級通信 2018. 11. 16 No. 24

真実を知る大冒険 ~ハンセン病~

漢語で『ハンセン病』について学習しました。ハンセン病について新聞やニュース等で取り上げられていますが、普通新聞では多く、関心がないと思われる記事も多々見られます。ハンセン病は差別がひどく、かつては「らい予防法」で強制入院させられていたことが知られていました。強制入院させられてからは家族と離れて生活している人がいるという実情があることについて、子どもたちも考えました。子どもたちも関心を持った意見が数多く出てきました。正しく理解することが大切であることに気付きました。私たちが知っている以上に子どもたちもしっかりと自分の考えを述べて、たくさん意見を交換していました。正しくハンセン病について知ることが大切である、家族にも伝えたいという意見も出て、嬉しいと思いました。

<児童の感想を紹介し、しっかりと伝えられています。>

わたしは、この『ハンセン病』についての授業を通してハンセン病が差別されることを知りませんでした。わたしも知らないところで、ひどい差別が起きていることも、知らない人がいることも知りませんでした。わたしは授業を通して、みんなが正しい知識を知ること、正しく理解すること、差別なく差別を受けつづけることが大切だと思いました。他にも、差別された人の知らないところで差別を受けている人がいるかも知れません。今回の授業で知ったことを大切にして、差別なく差別を受けつづけていきたいと思います。

差別はいつか終わる、それを夢見るだけでいいです。この大冒険は差別が自分たちだけでいなくなる、みんなからみんなと平等に生活していく、みんなが社会をつくっていくことです。自分たちがいるところのみんなのチームポイントだし、差別する人には平等に扱われたいです。人と人差別がなくなるといいです。差別を止める人がもっと増えてほしいと思います。差別がなくなるといいです。差別される社会をつくってほしいです。

What's time get up?

英語では「What's time get up?」という表現があります。朝の挨拶「I get up at 6:00.」と同じような表現の学習をしています。しかし、文法が難しくなっているため、授業で大変な苦しみを感じました。覚えようとしていましたが、理解が難しく、家で「What's time get up?」と聞いてあげてほしい。それが日常の中で自然と出てくるのがいいと思います。下の英文は毎日覚えることで自分たちも覚えようとしています。自然と文法の勉強も進んでいきます。子どもたちには聞いてあげてほしい。そして、自分たちも覚えてほしい。さあ英語を勉強しようと思います。

I'm eleven years old.
My birthday is April 8th.
It's a special day today.
We have a new student.